

お取引先各位

# HOT！な情報

## 日経産業新聞 1面に掲載！

12月1日（火）発売の日経産業新聞に  
日進産業が掲載されました。

「2020年の先へ ～エコ経営への挑戦～」

日本の企業の様々な環境対策の取り組みを紹介する  
日経産業新聞の1面特集記事に紹介されています。

### ご注意！！

紙面の著作権は新聞社に帰属しておりますので、紙面の取扱いには  
ご注意ください。

（ホームページや広告等への転載・転用は絶対におやめ下さい。）

# 2020年の先へ

## エコ経営への挑戦

ロケット開発の技術を生かした断熱塗料を施した建材④。通常の建材③に比べて断熱効果が高い(東京・丸の内「JAXA」)



レヒなど直流で動く家電製品も多い。アタプターで交流を直流に変換する際、2割程度のエネルギー損失が生じる。

そこで同ライアンスは、交流の電力を家庭の入り口までとめて直流に変える仕組みの研究を始めた。「テレビやパソコンなどの消費電力を平均

松岡茂登所長と意気込んで。2008年度の家庭からの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量は1990年度比34・7%増の1億7200万トンを(速報値)。排出量の削減には家電製品の省エネルギー性能を上げるだけでなく、「器」である家具

床下空間に冷気や暖気を流し込み、放射熱を利用して、中堅の塗料メーカー、日進産業(東京・板橋)の予約制「ショールーム」は建設会社などで1ヵ月先まで埋まっている。目当ては建築用断熱塗料。宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発したロケット

液を、各住戸と4階建て

# 壁断熱にロケット技術

### 第4部 総力戦のCO<sub>2</sub>削減

11月11日午後3時、東大藤雄北陸先端科学技術大学院大学教授の発足。NTT、NEC、パナソニック電工と約20社が参加した。

電力会社が家庭に送る電力は交流だが、実はテ

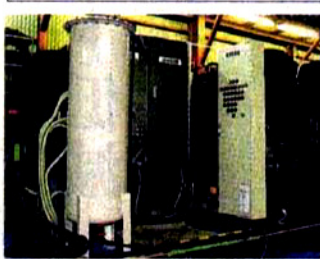
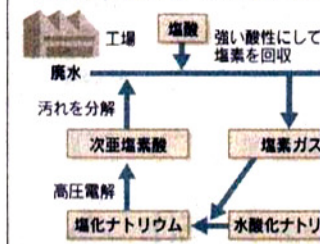
10%程度減らせる」(N T T環境エネルギー研究所)。新築住宅なら配線費用などは現状と変わらないという。2年以内に給電時の電圧などに「直流システム」のルール作りをする方針で、「日本発の世界標準にしたいたい」(同研究所の

の屋上にある集熱パネル間で循環させるため、ポンプなどを改良中だ。CO<sub>2</sub>排出量は空調で15%減、給湯で30%減を見込む。光熱費は年10万円超安くなる試算。

京都市東野市で着工した国土交通省の補助もあり、来年10月の完成後の分譲価格は周辺相場並み

# GESが廃水

GESの処理装置による廃水浄化



4トントラックに積める大きさのため、設置もしやすい

(CO<sub>2</sub>)や水になる。CO<sub>2</sub>排出量は微生物処理と同程度という。ポイントは反応後の混合液中の塩素を再利用できたこと。水溶液を強い酸性にする溶液中の塩素が気体になる性質に着目。混合液に強塩素酸を加えて気体の塩素を分離し、水酸化ナトリウム

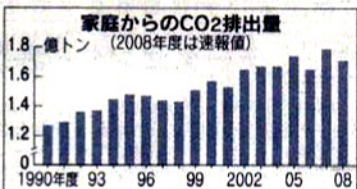
半導体製造の主要工程であるレジスのトナリに必要に売りに出さる。半導体基板上に回路を形成するには、回路をつなぐ。レジストと呼ばれる。硫酸を継ぎ足し、初期導入費用は1年標準

とるSPMという薬液を使う。SPMを長時間使用すると、過酸化水素水と硫酸との間で化学反応が進んで硫酸の濃度が低下。はがす機能も落ちるため、硫酸を継ぎ足し、初期導入費用は1年標準

新製品は硫酸をダイオキシン製の電極で電気分解することで酸化力を高

度も高かった。価格は一般塗料の約2倍だが、耐久性が15・20年と2・3倍あるという。JAXAが開発したのは人工衛星を納めるロケットの先端部を高熱から守るための断熱材。断熱塗料を独自に開発していた日進産業が、セラミックの配合法などのノウハウを取り込んで性能を高め、商機をつかんだ。

# 「直流給電」へ研究始動



今年度に入り出荷量が前年度の5割増。成分の半分以上を占める特殊セラミックが塗膜表面を覆う。実現すれば電気代の目録による熱の侵入を抑え、室内の壁や天井に塗れば熱の漏れを防ぐ。静面県内の住宅の例では、断熱材を壁に塗った部屋の方が涼しかった。改革の号砲が鳴る。

度も高かった。価格は一般塗料の約2倍だが、耐久性が15・20年と2・3倍あるという。JAXAが開発したのは人工衛星を納めるロケットの先端部を高熱から守るための断熱材。断熱塗料を独自に開発していた日進産業が、セラミックの配合法などのノウハウを取り込んで性能を高め、商機をつかんだ。